

平成22年度第1回リニモ沿線地域づくり会議 会議概要

日時：平成22年8月24日（火）午前10時から12時まで

場所：愛知県立大学学術文化交流センター 多目的ホール

出席者：委員13名（代理含む）、事務局（愛知県地域振興部地域政策課長、沿線市町担当部課長他）

開 会

1 あいさつ（愛知県地域振興部地域政策課長）

リニモ沿線では、地元における面的整備や県関連施設整備も進みつつあり、徐々にではあるが、地域づくりへの機運が高まってきている。今後、さらに関係者が連携して取り組んでいかなければいけない。

リニモ沿線地域づくり会議においては、昨年度の会議発足以来、委員から幅広い助言をいただいたが、今年度も、同様に、委員からの助言を沿線地域のまちづくりに活かしたいので、引き続き、忌憚のない意見をいただきたい。

本日は、リニモ沿線の地域づくりの状況についての全般的な報告に加え、今年度実施される、沿線大学の学生による地域づくり活性化事業に採択された企画についての報告も予定している。沿線の地域づくりにおいては、地元地域の方々はもとより、若い力が不可欠だと思っているが、そうした若い力を活かす、また、育てるといった観点からも意見をいただきたい。

2 委員長の選出

瀬口委員を委員長に選出

3 議題

リニモ沿線地域づくりの状況について

（1）県・沿線市町の地域づくりについての報告

（事務局から資料1～資料6を説明）

（2）学生によるリニモ沿線地域づくり活性化事業についての報告

（事務局から資料7を説明）

（3）意見交換

【委員及び事務局からの主な発言】

- 知の拠点について、そこで働かれる方が多いほど、リニモ利用者数の増加や地域の活性化が期待できる。知の拠点で働かれる方の人数を教えてください。

- 先導的中核施設で200人程度、シンクロトン光利用施設で200人程度、その他2つの研究施設で250人、合計で600人から650人ぐらいの方が、知の拠点で働くとの想定をしている。

- 知の拠点が、平成 23 年度には一部施設の供用開始とあるが、大学の関与の仕方が分からない。今後、どのように大学と連携していく予定なのか教えてほしい。
- 知の拠点において、大学や企業とどのように連携していく予定なのか、今あった質問については、担当している部局に伝えておく。
- リニモ沿線地域づくりのために、いろいろな事業を進めているが、その事業を進めることによって、どれぐらいの効果があるのか、開業当初から最近までのリニモの利用者数、出来れば各駅の利用数を提示してほしい。資料の説明の際、利用者数が右肩上がりという話があった。そういうことをしっかりと把握するためにも、月単位での数字で提示してほしい。
- 次回からはリニモ利用者数の資料を用意する。リニモの利用者数は、万博終了後、一旦落ち込んだが、その後、着実に増加傾向にある。21 年度は対前年度比で 2%の増加となり、1 日平均 16,819 人の利用者数だった。21 年度はリーマンショック後の不景気、インフルエンザによる大学の授業閉鎖等もあったが、他の鉄道事業者は殆どが、対前年度比マイナスの中で、リニモは前年度比 2%の増加となった。22 年度については、4 月から 7 月まで間の 4 ヶ月間の数字ではあるが、対前年度比 5%の増加となっている。
- まちづくりには時間がかかり、1 年や 2 年では出来ない。短期的なイベント等も併用しながら、まちづくりを進めていく形になると思うが、分析しながら事業を進めていかないと、大局を見失う可能性がある。
- 市民団体の人たちも、大学や学生と連携して、いろいろな事を実施したいと思っている。例えば、大学・地域連携コンソーシアムのようなイメージのものが出来れば良い。直ちに、そのような仕組みが出来るとは思わないが、リニモ沿線地域づくり会議の分科会のような形で、大学と地域の連携というテーマに絞って、話し合いが出来るような場を作ることはできないか。
- 検討課題として持ち帰りたい。大学と地域の連携とは直接関係ないかもしれないが、今年、沿線の大学及び地域の情報を持ち寄ったホームページを作成する予定。そういったものが、きっかけで連携できることがあるかもしれない。
- リニモ沿線のまちづくりに自転車を活用させる必要があると思う。例えば、沿線市町が連携して、リニモ沿線に繰り出せるような自転車道を整備する等。
瀬戸市内で、電動アシスト付き自転車の実証実験を実施した。多くの人に体験してもらい、非常に成果があった。名鉄や名古屋市交通局が、IC カード「マナカ」を導入する予定だが、その IC カードを活用して電動自転車が借りられる仕組みを実験した。また、IC カードを使って買い物をする、割引されるだけでなく、

お客がどこを自転車で訪ねたかがデータで取れることも分かった。瀬戸市が、まるっとミュージアム観光協会と瀬戸まちづくり会社と合同で、この実験を実施したが、このシステムをまちの中に導入できないか、検討中ということだった。リニモ沿線にも、こういう仕組みが構築できたら良い。

- コンパクトシティの例として、ヨーロッパの都市では、自転車のステーションが、500箇所ぐらいあり、ICカードがあれば、非常に安く自転車を利用できる。過度に自動車を利用しないというまちづくりが進展している。ぜひ先進的なまちづくりを進めてほしい。
- 現在、県では、リニモ沿線において無料のレンタサイクルを行っている。無料のレンタサイクルを約140台用意しており、学生を中心にかなり高い割合で利用してもらっている。長久手町には、リニモ駅周辺に駐輪場を整備してもらった。
エコモビリティライフという環境に優しい交通行動をお願いする中で、自転車は非常にエコな移動手段であり、ぜひ普及させていきたい。自転車道の整備を含め、自転車を利用しやすい環境を少しずつ整備していけたらと思う。
- 区画整理事業を計画している区域は、自転車道を計画に入れてほしい。最低でも幹線道路には自転車道を整備してほしい。
- モリコロパークの利用形態が、昔の青少年公園だった頃とは変わってきている。先日、モリコロパーク内を歩く機会があったが、利用の仕方が一部分だけであって、モリコロパーク全体が利用されていない状況だった。大観覧車周辺の閑散とした部分に、いろいろな物を持ってくると、モリコロパークだけでなくリニモの利用者も増えると思う。特に、遠方からのお客が増えるのでは。もう少し人が集まるように、県として何か考えてほしい。出来れば、家族連れが集まることのできる、昔の青少年公園のような形態で考えていただくと、リニモの利用者数も増えてくると思う。
学生と一緒に進めるまちづくりについて、長久手町リニモ活性化会議では、学生からの意見を取り入れてイベントを実施している。学生や地域住民の意見を取り入れる仕組みがあると、まちづくりに役に立つのではと思う。検討してほしい。
- モリコロパーク自体は、まだ整備途中。23年度以降、公園内にサイクリングコースのようなものができるという話を聞いている。また、地球市民交流センターでは、文化教室のような催しや、団体の活動に、多目的教室を使うことができる。さらに、駅の近くにバーベキューができるような野外施設ができるそうだ。そういったもので、家族連れを呼び込むことも考えている。大観覧車周辺区域も、いろいろな人の意見を聞きながら、整備していくことになる。
学生との連携については、21年度は、学生3グループからまちづくりに対する提言を発表していただいた。22年度は、学生自身にグループで活動してもらった

め、4つのグループを採択して活動を実際に実施してもらうことを考えている。さらに、これらがうまく繋がっていくようであれば、次年度は、地域住民の方の提案をもらいながら、今年の学生事業に合わせた形で、引き続き事業を実施できればと思う。

- 自転車の活用について、県立大学とモリコロパーク、そして長久手町の既存市街地の間の人の流れを調査したところ、モリコロパークに訪れた人たちで、長久手町の既存市街地に行く人が少なかった。つまり、モリコロパークで完結して、そのまま帰宅する。長久手町や日進市などの観光施設には、あまり行っていないという事が調査で分かった。公園西駅から既存市街地へ行くバスがあるにも関わらず、殆ど機能していなかった。モリコロパークの方から、長久手町の既存市街地に行きたいと思っても、案内等が無かった。モリコロパークを訪れた人が、長久手町の様々なイベントなり観光施設などに行けるような、マップや掲示あるいは自転車道、遊歩道を整備したらどうか。これは、昨年度からの検討課題だったと思うので、継続して取り組んでもらいたい。

学生関連については、県立大学と淑徳大学、学生のボランティア団体などの活動が連携している。長久手町あるいは、日進市にある大学等には行くが、長久手町や日進市の地域とは繋がっていないし、リニモとも繋がっていない。要するに、大学ごとに繋がっているだけで、リニモ沿線の地域づくりには繋がっていない印象がある。リニモの駅の中で、学生が集える場所があるといい。現状では、県大の学生もボランティアの学生は、淑徳大学に行き、そこでいろいろな他大学の学生とイベントなどを考えたりしている。大学生同士だけではなく、リニモ沿線の様々な市民団体とも繋がるために、交流のスペースがモリコロパークや長久手古戦場の駅あたりにあると、大学と地域が繋がっていくと思う。これもまた、検討してもらいたい。

- 大学、街の中、駅の近くや駅の中に、学生が自由に使えるスペースがあれば、学生たちがもっと交流がしやすくなるというのは、もっともな意見だ。それから、モリコロパークに来た人が、街の中に行かないというのは、いろいろな理由があるかもしれないが、ホームページを見て、他施設でのイベント情報などが同時に分かれば、行ってみようということになるかもしれない。ホームページでの情報提供を工夫してもらいたい。

資料7の学生による活性化事業の中で、愛知淑徳大学の学生が、餅つき大会を地域住民と一緒にやるようだ。こういうことをきっかけに、来年は地域住民の提案なども取り入れて、このような事業を、学生だけでなくプラス地域住民という形で広げてほしい。また、名古屋商科大の真菜（まな）・米粉スイーツ展の事業に関して、一宮市では、商工会議所が中心となって、年に1回、喫茶店のモーニングの豪華さを競うモーニング博というイベントを行っている。出来れば、長久手町でも、今回の真菜・米粉スイーツ展をきっかけにして、スイーツ博なるものを是非行ってもらいたい。今年は、学生が中心となっていていろいろやってくれると

思うが、今後は学生と地域の店等が交流しながら、地域のイベントを行ってほしい。

- 名古屋商科大学の事業について、真菜・米粉は、JAの作っている商品。真菜は通称小松菜と言ひ、昔からこの地域で栽培しているもの。それと米粉は、米の消費拡大の一環として、米を挽いてパン用にしたりケーキ用にするとか、他にもおこし物を作っている。スイーツの開発は、かなり難しい。専門的に言うと、ふるいの目を400という非常に細かい微粒子にして作った米粉で作ると、とてもおいしいパウンドケーキ等ができる。名古屋商科大学の事業を応援していきたい。

リニモの利用券（一日乗車券）で、愛・地球博記念公園のスケート場の利用料金が半額になるなどの取組をしているようだが、こうした取組を、年間を通して、もっといろいろな行事につなげてもらいたい。温水プール、観覧車など、リニモを使った人は利用料を半額にしてもらうような取組であれば、今すぐにでも出来るのではないかと思う。

- リニモ沿線市町の観光資源間の連携があまり無いという意見を他からもらっている。そこで、来年度、広域観光という観点で、それぞれの観光スポットをつなげるために、リニモを使いながら、どのようなルートで行けるかということの研究してみたらどうかと考えている。

- リニモの収益を増やすためには、なかなか難しいことが多いようだ。初期投資に対する借金返済も大変だが、ランニングコスト分の収入を確保するということが基本だ。

- ランニングコスト確保の必要性について話があったが、リニモの21年度決算においては、初めてランニングコストが賄える状態になった。決算の中身で言うと、減価償却費が非常に大きな負担となっているが、それを除いた減価償却前の営業損益について、黒字化した。今後、その黒字を維持できれば、ランニングコストの部分は、何とか営業収入でもって賄えるということになる。なお、初期投資の部分は非常に重いので、この部分は、県・沿線市町で支援していくということにしている。初期投資の部分をある程度軽減できれば、自律的に回っていくということになる。

- あおなみ線は、どのような状況か。参考までに教えてほしい。

- あおなみ線の会社もリニモと同じように21年度決算において、減価償却前の営業損益が黒字化している。あおなみ線も名古屋市が中心となって支援策を進めているが、初期投資の部分を支援して身軽になれば会社は自律して回っていく。

- あおなみ線の沿線については、来年、金城埠頭に交通博物館がオープンすると

聞いている。都市計画的な手法では駅前の容積率を緩和して、いろいろな建物ができるように、名古屋市も取り組んでおり、前進しているようだ。

- 愛知工業大学の事業は、絵画と作文のコンクールを実施されるとあるが、これは、リニモの駅で展示してもらえるのか。駅を展示会場として使うことは、非常に有効だ。私たちの団体も数回、リニモの写真展を開催したことがある。他の市民団体も、子どもの習字や絵の展示会をやったことがある。非常に簡単なようで難しいことが多々あった。今回のような学生事業が、今後、もっと実施しやすくするために、どのような対策・対応をすべきか、勉強テーマのひとつにしてほしい。

モリコロパークの近くに陶磁資料館という非常に魅力的な施設があるが、モリコロパークから陶磁資料館へのアクセスについて、モリコロパークの北東部分に出入口があれば、陶磁資料館への流れが出来やすいと思う。

- 本日、会場に展示しているのは、リニモ沿線の駅前の開発エリアの模型だ。本日の展示の中には無いが、陶磁資料館南駅の提案もあった。駅前から陶磁資料館までのアプローチを造るといものだが、平らな道ときつい道を造って、散策しながら行けるとい提案があった。実現できるかどうかは別問題だが、そういったアクセスが必要であり、それによってリニモと施設が繋がってくるということがある。

学生提案の中にあっただが、駅やリニモの中でプレゼンテーションしたい といったような場合、可能なのか、検討してもらいたい。

- 駅の施設を活用することについて、具体的にどうするかということは、相談させてもらいたいと思うが、県と沿線市町で東部丘陵線連絡協議会という、この地域づくり会議とは別の団体を持っている。その団体で、藤が丘駅と愛・地球博記念公園駅の2駅においては、ポスターや絵画を展示できるボードを既に設置しており、パンフレットラックは各駅に置いているので、そういったものを活用してもらすることができる。

今回の愛知工業大学の提案は、駅を展示スペースとして活用したいという提案もあり、展示スペースとして、駅がいいのか地球市民交流センターなどの周辺施設がいいのかという問題はあるが、いずれにしても駅を活用してもらうことは、活性化という意味からもありがたい。どういった形で活用してもらえるかは、検討させてもらいたい。

- 愛知工業大学の事業は、自然環境の中で先進的なものを提示するという一方で、万博の精神にも合っている。もう一つの AR の技術もどのような事業になるのか分からないが、新しいものが生れてくるのではないかと期待をしている。

- 陶磁資料館から駅まで歩けるといのは、非常に良い提案だと思う。本日もリ

ニモを利用してここに来たが、学生であれば 20 分ぐらい歩くことは問題ないと思う。例えば、各大学から駅までの散歩道を整備することも良いと思う。

公共的な建物はリニモ沿線で開発される印象を受けたが、民間企業はあまり動きが無いようだ。民間企業がどのような動きをしているのか、教えてほしい。

- 人が住むだけでは、まちが構成されない。商業施設だとか、利便施設が必要。長久手古戦場駅周辺では、3.9ha 程度の商業施設を予定しており、そこにはイオンリテールが出店することが決まっている。イオンリテールのコンセプトを活かしながら、区画整理事業としてそれに関係するものを整備していくという共同事業者という形で運営をしていきたい。

公園西駅周辺についても、飛び市街化区域になるので、周りに都市的なものが何もない。そこだけで完結はできないにしても、ある程度できるような商業的なエリア、利便施設が必要なので、20ha の中のいくつかは、大型商業施設も含めて予定をしている。これは、地元の方々と話をしながら決めていく話題ではあるが、商業施設だとかレクリエーション施設は、沿線に必要だと考えている。買い物は、車で来るケースが多いが、買い物だけでなく施設内で楽しむアミューズメント性も商業施設の中に必要だと思う。そういった機能には公共交通で来るお客も多いと聞いているので、そういった商業マネジメントの声を聞きながら、まちづくりを進めていきたい。

- 豊田市の八草地区において、現在のところ企業進出という話は聞いていない。その理由として、八草地区の市街化区域は、低層の土地利用規制がかかっているため、そういったことが課題になっているのかという気がする。

企業とは別に、豊田市内の住民の分布を見ると、通勤・通学という観点からも住居系の建物は、駅周辺に増えてきている。企業系の建物については、広域道路の近く、南部地域に工場が多いことから、その周辺に土地を求める企業が多いという状況だ。

- 長久手町が市街化編入に取り組んでいることは、民間ディベロッパーとしては、非常にうれしい話。駅周辺が市街化調整区域になっているということだが、開発指導要綱を緩めるとか、補助金を出すとか、そういった取組ができるのであれば、お願いしたい。

長久手古戦場駅に、イオンが来るということだが、八草地区についても、愛知環状鉄道との接続があるので、そういった点を充実していただきたいと思う。ちなみに、資料 4 の八草地区の民間企業の研究開発施設というのは、どのようなイメージなのか教えてほしい。

- まだ決まっていない。知の拠点の整備も進んでくるし、そういったところの関連と併せて、企業誘致について考えていくところかと思っている。まだ、実際に進めていけるかどうかということ、現在、検討しているところだ。ただ、これ

からの次世代産業だとか、新たな成長分野の方向も出ているので、あわせてそういった分野も含めて、企業誘致・産業誘致を展開していけたらと考えている。

4 その他

リニモ沿線地域づくり会議の第2回目は、来年の3月頃開催予定

(以上、文責事務局)